



# こすもスマイル



発行／小林市立病院  
地域医療連携室

17号

平成27年12月21日発行

～副看護部長のあいさつ～

今回は、当院の医療安全についてご紹介します。

当院は、平成12年10月に医療事故防止対策委員会・リスクマネジメント部会を設置しました。その後、全職員を対象にインシデントレポートによる報告制度の強化、院内ラウンド、医療安全研修、医療安全対策加算1（85点）算定を平成22年4月から開始、平成26年12月からインシデント管理システム「セーフマスター」を導入しました。

インシデントの要因は、従来は当事者がちゃんと注意していなかったから、真剣さが足りないなど個人の問題としてとらえられていました。しかし、現在ではマニュアルやルールは守られていたか（使えるマニュアルなのかも含めて）環境がリスクの要因になっていないか、設備的にはどうだったのか等、医療システムにおける管理の問題としてとらえられています。

当院では薬剤によるインシデントの発生が高く、なかでも看護師がリーダー業務をしながら薬剤（持参薬を含む）の整理、準備等で間違える事例が多く報告されました。薬剤インシデントの要因としては、作業を中断する回数が多い、集中して行う事ができない等が挙げられ平成26年6月から平成27年2月にかけて病棟に薬剤管理看護師を配置しました。この対策で、以降の看護師による薬剤のインシデントは減少傾向にあります。

なお、医療安全研修は全職員対象を年2回実施しています。

今年の1回目の研修は、「麻薬の取り扱いについて」でした。2回目の研修は各部署の医療安全の取り組みを報告してもらう予定です。

今年度は、3名が医療安全管理者養成研修を修了しました。今後も少しずつ増えるようにしていきたいと思えます。

「医療事故は0にはできません。だから、できる事は何でも、1つでも、少しでもリスクを低減する対策を実行する事が大事なのです。」

（河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラー」より）  
この言葉を胸に刻み今後も頑張っていきたいと思えます。



小林市立病院 副看護部長 漆原 トモ子

## 理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

### 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します

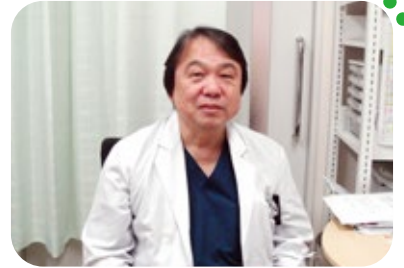


# 診療部紹介

今回は

**整形外科**

です。



## 「超高齢化社会に対する整形外科医のこころづもり」

いつも地域の皆様方には、大変お世話になっております。

地域連携だより「こすもスマイル」を借りて、心より感謝の意を表したいと思っております。

さて、私が最近特に思うことは、大腿骨頸部・転子部骨折の患者さんの平均年齢が90歳をとうに越えていることです。20年前と比べて、統計学的にも証明されています。

南九州は気候穏やかで、長寿の方が多くみうけられますが、特に西諸地区は、90歳以上の超高齢者が多いように思います。歩行可能のため、転倒し、骨折が生じるようです。

これらの骨折の方々を診て、きたる100歳を無事にむかえるためには、私たち整形外科医が何をなすべきか、どのように貢献すべきか、常に模索しています。

骨粗鬆症の評価、治療、分析、さらに新しい治療薬の評価、フィードバックして得た結果を大学や製薬会社とともに研究を進めること。

筋力評価、歩行解析、それから得られた情報で、重点的な筋の強化、姿勢の修正など考え得ることはすべてやる。

手術法にしても、筋損傷を最小限度にとどめる、最小侵襲手術。術後の脱臼を防ぐために、股関節へは、前方アプローチを施行しています。当然、高度心不全の方の骨折手術の麻酔は、すべてブロック麻酔です。

しかし、何よりも大事なことは、超高齢者の方々、一人一人に寄り添う治療であると思っています。家族のおられない方、判断能力のおとろえた方、それぞれに心配りをしてあげることだと思っています。

まるで、幼子が転んだとき、手をさしのべるが如くに

小林市立病院 整形外科科長 中村 憲一

## 今月の行事食 ～正月の行事食より～

今回より当院での行事食をご紹介します。

お正月でお馴染みの金柑の甘露煮の作り方

～材料～

金柑500g 砂糖250g 水適量

1. 水洗いをした金柑のヘタを取り、切り目をいれます。
2. たっぷりのお湯で3分から5分茹で水気を切ります。
3. 渋みを抜くために水の中に約1時間浸します。
4. 鍋に3の金柑を入れ、金柑が浸るくらいの水、砂糖を入れて弱火で煮ます。
5. 皮が軟らかく汁にトロミがついてきたら完成です。

ワンポイント

たっぷりのお湯で茹でた後、くしなどで切り目の間から種を取っておくと食べやすいです



# 看護部紹介

今回は **手術室** です。

今回は、手術室・中央材料室を紹介します。  
看護スタッフは看護師 7 名、看護助手 2 名（パート）  
が勤務しており、時間外手術についてはオンコール  
体制で対応しています。



手術室は 3 室あり、消化器外科・腫瘍外科、整形外科、泌尿器科、循環器内科による手術が行われています。直近 5 年の平均手術件数は 570 件で、そのうちの 1 割が緊急手術となっています。緊急手術の多くは外科の腹膜炎手術、ヘルニア嵌頓、整形外科の創傷処理・デブリードマンです。外科・泌尿器科では鏡視下手術も行われており、手術件数の 1 割を占め、主に腹腔鏡下胆嚢摘出術や腹腔鏡下・後腹膜鏡下の腎尿管悪性腫瘍手術が行われています。平成 27 年 7 月には 3D 内視鏡システム（右の写真）が新たに導入されています。

手術は術式により碎石位、側臥位、牽引体位などの特殊体位で行われる場合が多々あります。安全安楽な体位保持が出来るようにスタッフ全員でデモンストレーションを行っています。患者を疑似体験することは、スムーズな固定や除圧具合、羞恥心への配慮など気付きも多く有用であると考えます。



平成 21 年に新病院に移転した際に説明室 1 室と家族控え室 2 室が新設されました（左の写真）。移転前、手術患者の家族は病棟ロビーが待機場所でしたが、家族室が新設されたことで落ち着いて待機できる環境が提供できているのではないかと考えます。

また、今年「待機家族の術中看護」という観点から待機家族にアンケートを行いました。その結果、手術時間について‘医療者と待機家族の間に認識のずれ’がありました。待機家族との認識のずれの解消と不安の軽減を目的とし、術中訪問の一環として「手術開始」を情報提供する取り組みを始めました。

中央材料室においては洗浄・滅菌の質保障が重要です。特に洗浄においては洗浄後の消毒・滅菌の質に大きな影響を及ぼします。洗浄後の器材に異物残存がないことを目視確認することはもちろんですが、洗浄評価インジケータを活用し洗浄の質保障に努めています。

手術室・中央材料室は平日であれば見学可能ですので、お声掛けください。今後ともよろしくお願ひします。

手術室・中央材料室師長 米丸 博子

# 事務部門紹介

今回は

**医 事 係**

です。

医事係の紹介をします。

医事係は、外来受付、診療費（入院・外来）の会計計算と出納、レセプト請求などの医療事務に関する部門を主な業務としています。

受付は、患者さんが最初に病院スタッフと接するところであり、「声掛けや判りやすい言葉遣いなど」接遇に心掛けています。

また、初診で紹介状持参の患者さんも多く、診療科まで付き添い案内しています。その他、交通事故自賠責関連、労働災害関連、予防注射・健康診断予約受付・請求業務など、診療情報管理士1名、事務職1名、パート2名を含む10名のスタッフで担当しています。

その中で、大きなイベントとなるのが毎月末から月初めにかけて行うレセプト請求業務です。スタッフは、この2週間以上を要するレセプト請求作業に一斉に取り掛かり超過勤務を強いられることもしばしばです。この期間は、医事係にお菓子が一気に増えます。

診療報酬請求および医療保険制度の知識と経験をもとに各種の書類や電子カルテ記載内容とにらめっこしながら、請求もれや過剰請求などチェックを行い、関連部署にフィードバックして修正を依頼するなど病院経営を意識しながら他部署と連携を取っています。

今後の課題として、DPCや地域包括ケア病棟について勉強会を充実させていくこと、処置名と医療材料や薬剤などイメージできるように、処置見学の機会をもちたいと考えています。



医事係 スタッフ一同

# 第 19 回症例検討会

平成27年10月26日（月）に「第19回症例検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。今回は、院外から2人の方に参加をして頂きました。また、大勢の方々にもお越し頂き、大変充実した会となりました。ありがとうございました。

## 第19回症例検討会

日時：平成27年10月26日（月）18時30分～ 参加人数 117名

座長：小林市立病院 消化器外科・腫瘍外科医長 島名 昭彦



## 演題（発表者）



### 1. 一症例から退院支援のあり方を振り返る

橋本 早見

### 2. 非ケトン性高浸透圧性昏睡に対し血液浄化療法を 施工した1例

村田 淳一



### 3. パーキンソン病の症例に胸椎へのアプローチを 行った結果、移動能力が向上した一症例

野尻中央病院 リハビリテーション科 宮本 凌助

### 4. 劇症型肺炎球菌感染症の一例

救急科 川井田 望



### 5. 当院でのがん治療の現状

消化器外科・腫瘍外科 徳田 浩喜

### 6. NBI 拡大観察にて診断が可能であった早期胃癌 (0Ic) の1例

榎内視鏡内科病院 榎 信一郎



## 今回のお花

小林華道連盟より

毎週すばらしいお花をいただいております。



# 新規医師紹介

カワナ リョウ  
川名 遼



## プロフィール

- 診療科 救急科
- 趣味・特技 映画鑑賞・旅行・食べ歩き

平成27年12月1日から小林立病院 救急科に赴任しました川名 遼です。  
平成27年4月から7月までは県立宮崎病院、8月から11月までは都城市郡  
医師会病院で勤務していました。現在卒後4年目で救急は2年目になります。

現在救急部所属ですが医局の先生の垣根も低く麻酔科や外科の先生にも手技  
を教えて頂いています。また医師、看護師さんやコメディカルの人が会う人皆優しく気持ちよく仕事を  
行えています。普段は救急所属で手術や特殊な処置は行うことは無いですが、現病院ではたくさんの事が  
できる環境であり少しでも多くの事を吸収できたらと考えています。食事やお酒も好きなので西諸の  
特産物も堪能したいのでぜひ飲みましょう。4ヶ月と短いですが、よろしくお願いします。

## 地域医療連携室からのお知らせ

### 診察予約について

当診療科での待ち時間短縮を目的として  
紹介患者さんの事前予約を行っております！



### 予約方法

- ①別添の「診療予約申込書」にご記入のうえ、FAXでお送りください。
- ②担当科と協議の上、診療日時を決定し、「診療予約通知書」をFAXさせていただきます。

FAX 番号：0984-23-8226  
受付時間：9時～16時

※時間以外のFAXは翌朝、休日をはさむ場合は  
休日明けの対応となりますのでご了承ください。

### 症例検討会のご案内

第20回症例検討会を下記の日程で開催する運びとなりました。皆様には、何かとお忙しい時期では  
あると思いますが、スケジュール調整のうえ、多数のご参加をお待ちしております

日時：平成28年1月29日（金）18時30分～  
場所：小林立病院 2階大会議室

連絡先 小林立病院 地域医療連携室 TEL 0984-23-8225（直通）  
FAX 0984-23-8226

### 編集後記

今年も残りわずかとなりました。1年が過ぎるのはあっという間ですね。  
さあ、来年の目標を立てよう！！と思いついたのは良かったのですが、毎年、  
目標に向けて頑張るのは1ヶ月程度になっています。「継続は力なり」難しいですね。そういう訳で、  
来年は年女！！何事もなく、元気に楽しく毎日を過ごせることをモットーに日々過ごしていきたいと  
思います。

今年も連携室一同、大変お世話になりました。来年もよろしくお願いいたします。

医師事務作業補助 嶺石 莉菜